

袋井市たばこに関する市民意識調査結果

1. 調査の目的

喫煙者の状況、たばこによる健康被害の理解度、家庭や地域における受動喫煙対策の状況等を把握し、条例制定や今後の施策推進のための基礎資料とする。

2. 調査の実施方法

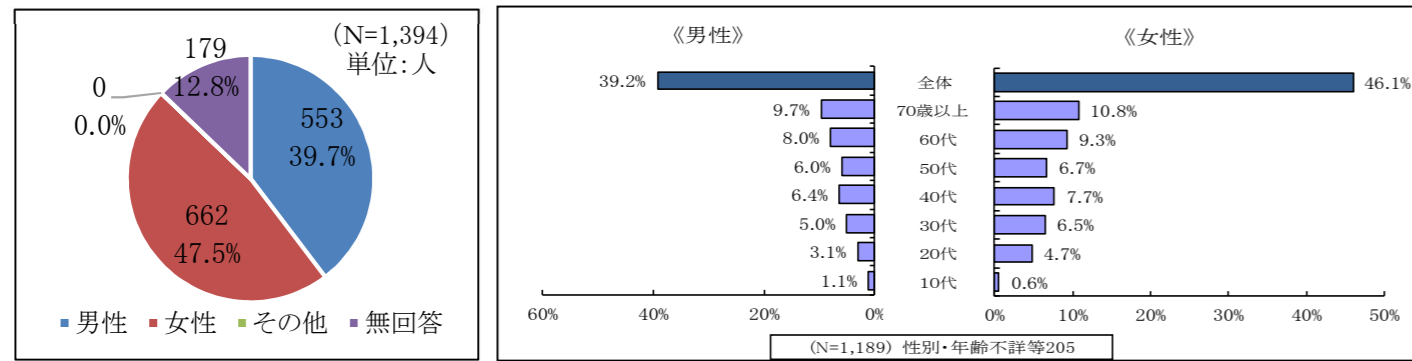
- (1) 調査対象：袋井市内在住の18歳以上の市民3,000人を無作為抽出
- (2) 調査方法：郵送調査
- (3) 調査期間：令和2年2月20日（木）～令和2年3月6日（金）

3. 回収状況

配布数：3,000通 有効回答数：1,394 回収率：46.5%

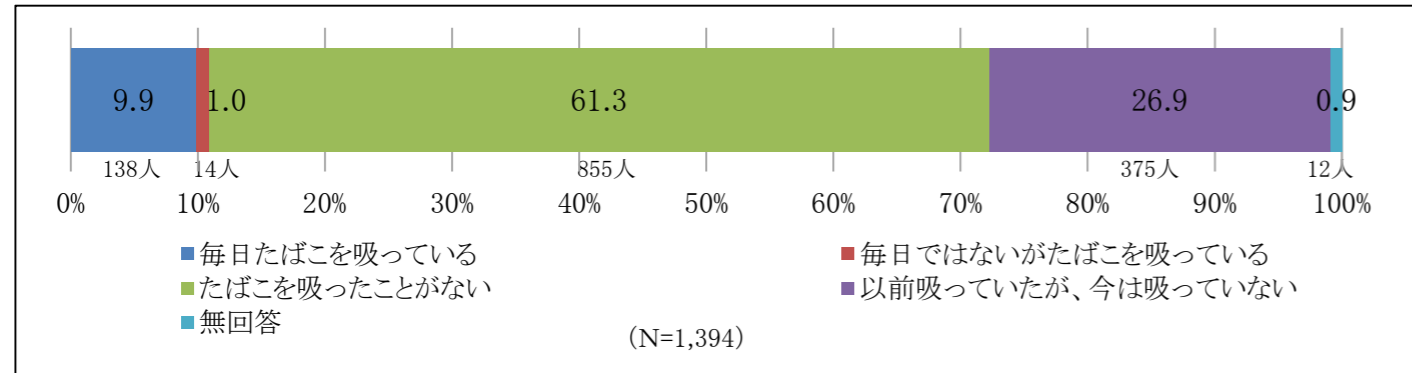
4. 調査の結果

(1) 回答者の属性（性別、年齢層）



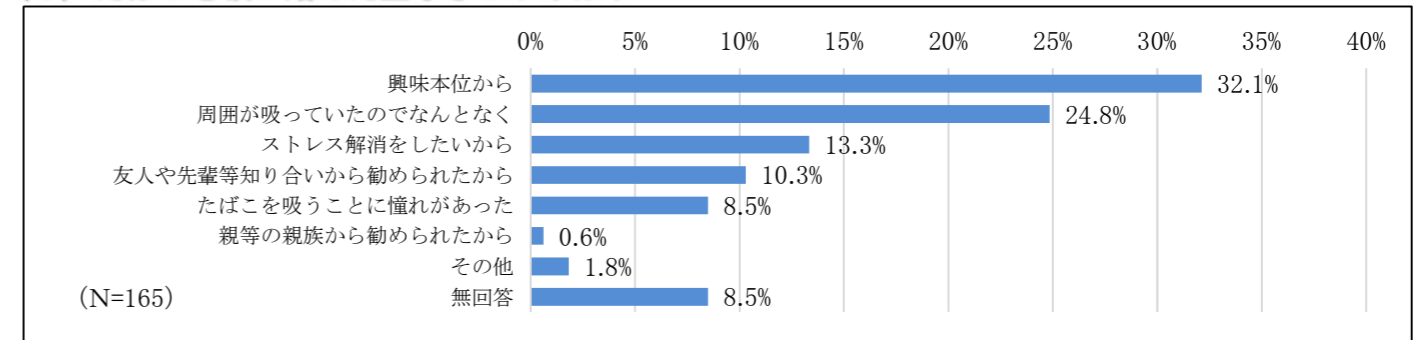
回答者の性別を見ると、男性が39.7%、女性が47.5%となっている。また、年齢層は、男女とも年齢が高くなるほど割合が高い傾向にある。

(2) 喫煙の状況は？（たばこを吸うか吸わないか）



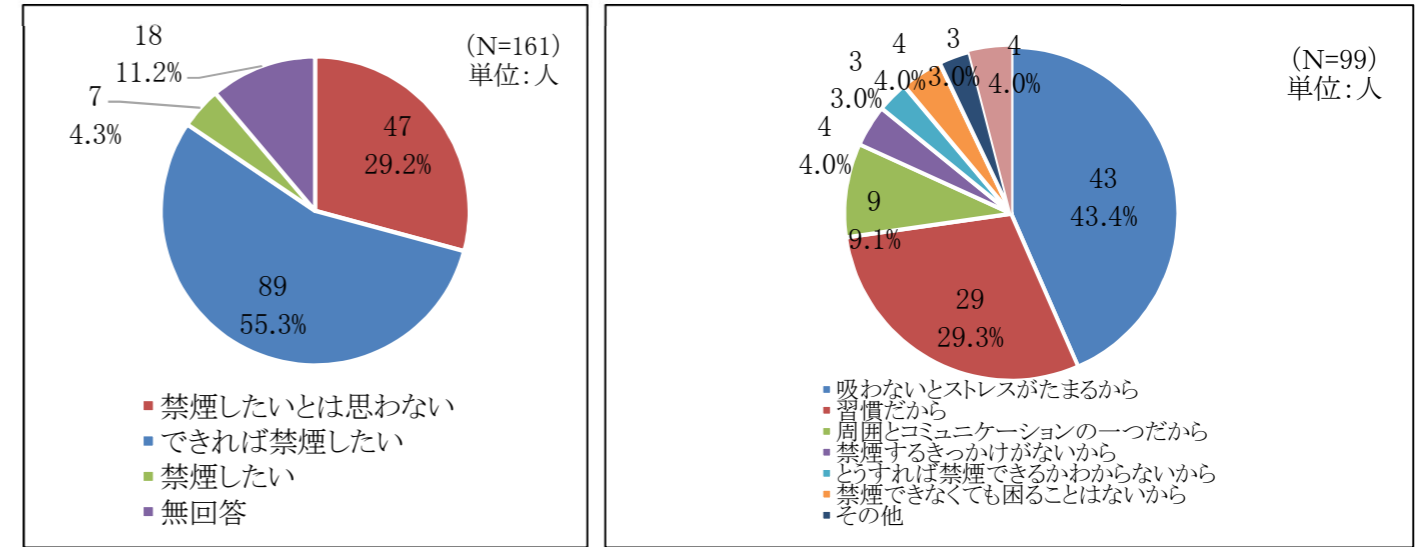
喫煙者（毎日たばこを吸っている、毎日ではないがたばこを吸っている）の割合をみると、10.9%となっている。また、たばこを吸ったことがないの割合が最も高く61.3%となっている。

(3) たばこを吸い始めた主なきっかけは？



たばこを吸い始めた主なきっかけをみると、「興味本位から」が32.1%と最も高く、次いで「周囲が吸っていたからなんとなく」が24.8%、「ストレス解消をしたいから」が13.3%と高くなっている。

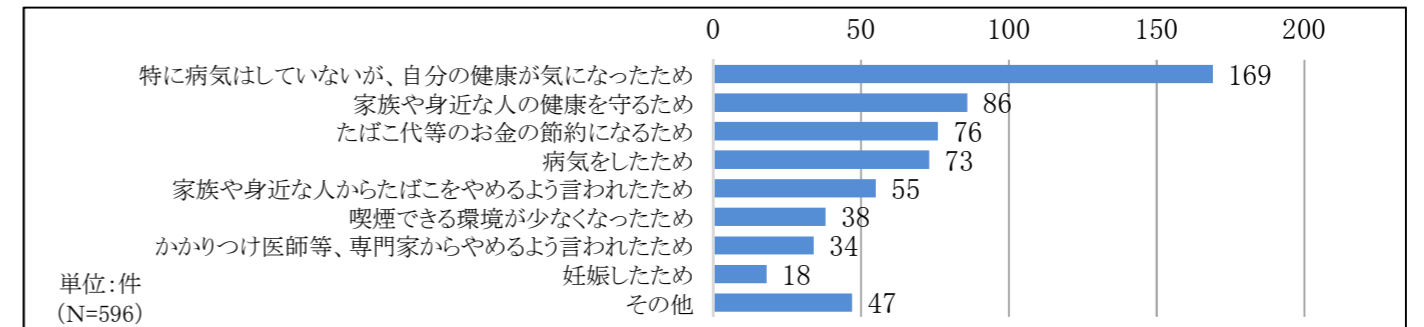
(4) 禁煙をしたいかどうか。また、禁煙したいができない1番主な理由は？



禁煙したいと思うかについてみると、「できれば禁煙したい」が、55.3%と最も高く、次いで「禁煙したいとは思わない」が29.2%となっている。

禁煙したいができない一番主な理由をみると、「吸わないとストレスがたまる」が43.4%と最も高く、次いで、「習慣だから」が29.3%、「周囲とコミュニケーションの一つだから」が9.1%となっている。

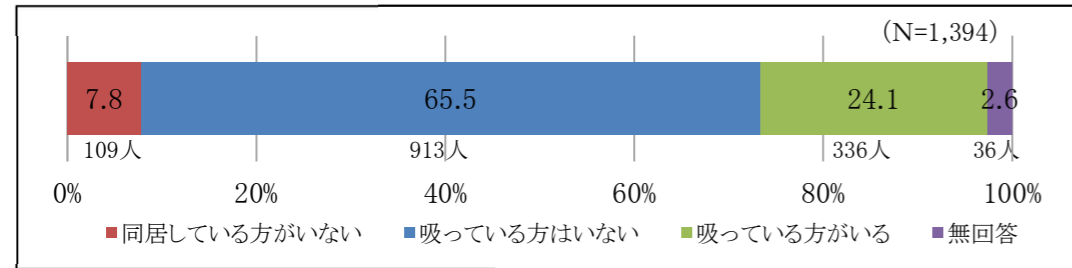
(5) 以前たばこを吸っていた人が、たばこをやめた主な理由は？（複数回答）



たばこをやめた主な理由をみると、「特に病気はしていないが、自分の健康が気になったため」が169件と最も高く、次いで、「家族や身近な人の健康を守るため」が86件、「たばこ代等のお金の節約になるため」が76件となっている。

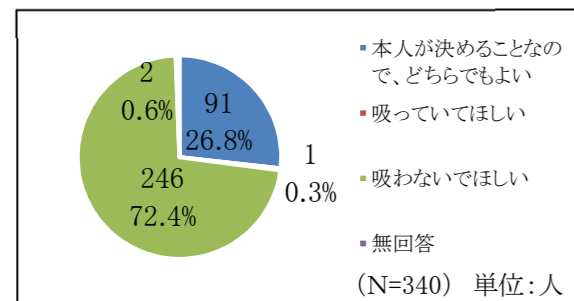
(6) 同居者の喫煙状況や家庭内での喫煙のルールは？

ア 同居者の喫煙状況？

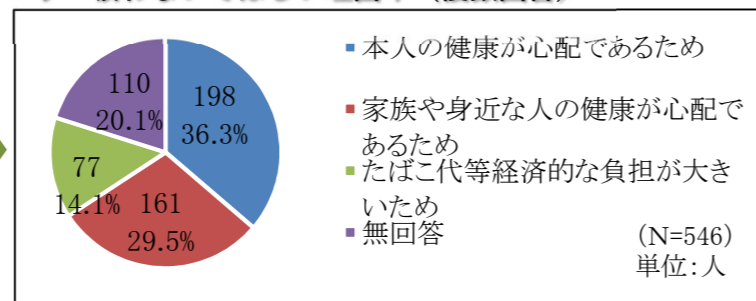


同居者の喫煙状況を見ると、「吸っている方はいない」が、65.5%と最も高く、「吸っている方がいる」が24.1%となっている。

イ 同居者の喫煙をどう思うか？

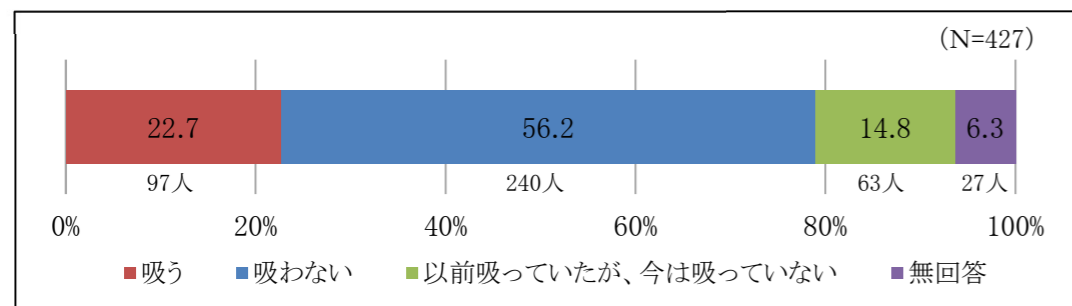


ウ 吸わないでほしい理由？ (複数回答)



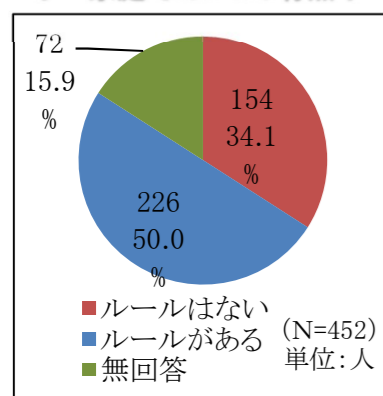
同居者の喫煙をどう思うかについてみると、「吸わないでほしい」が72.4%と最も高くなっており、その理由として、「本人の健康が心配であるため」が36.3%と最も高く、次いで、「家族や身近な人の健康が心配であるため」が29.5%となっている。

エ 同居の方と一緒にいる空間でたばこを吸うか？



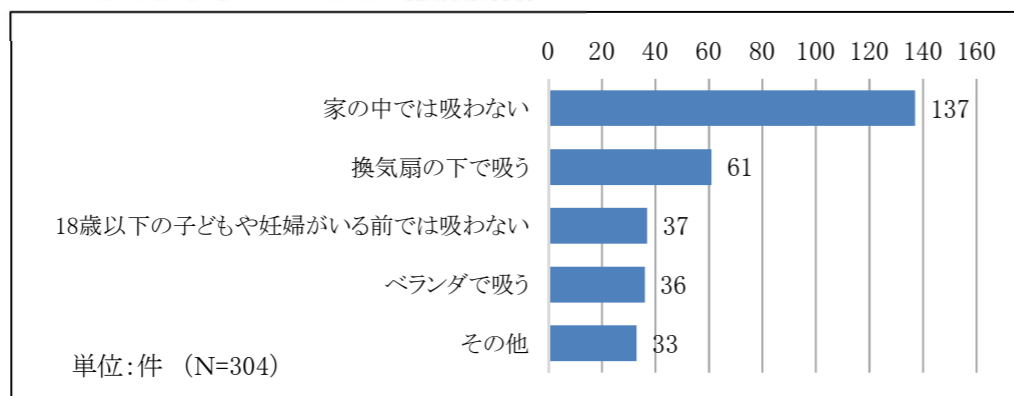
喫煙者が同居の方と一緒にいる空間でたばこを吸うかについてみると、「吸わない」が、56.2%と最も高く、次いで「吸う」が22.7%となっている。

オ 家庭でのルールの有無？



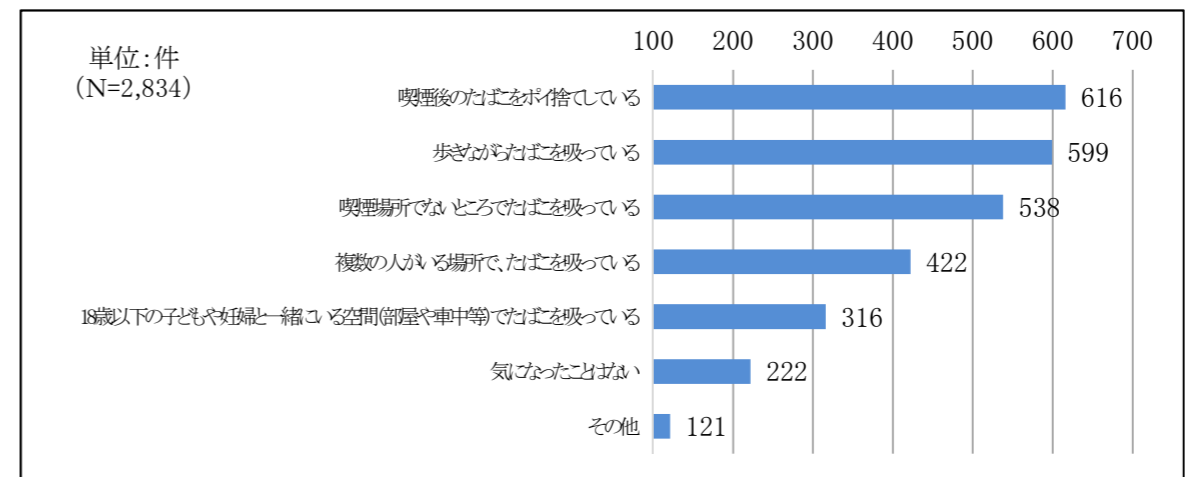
家庭内でのたばこを吸うことに関するルールの有無をみると、「ルールがある」が、50.0%と高くなっている。

カ どのようなルールか？ (複数回答)



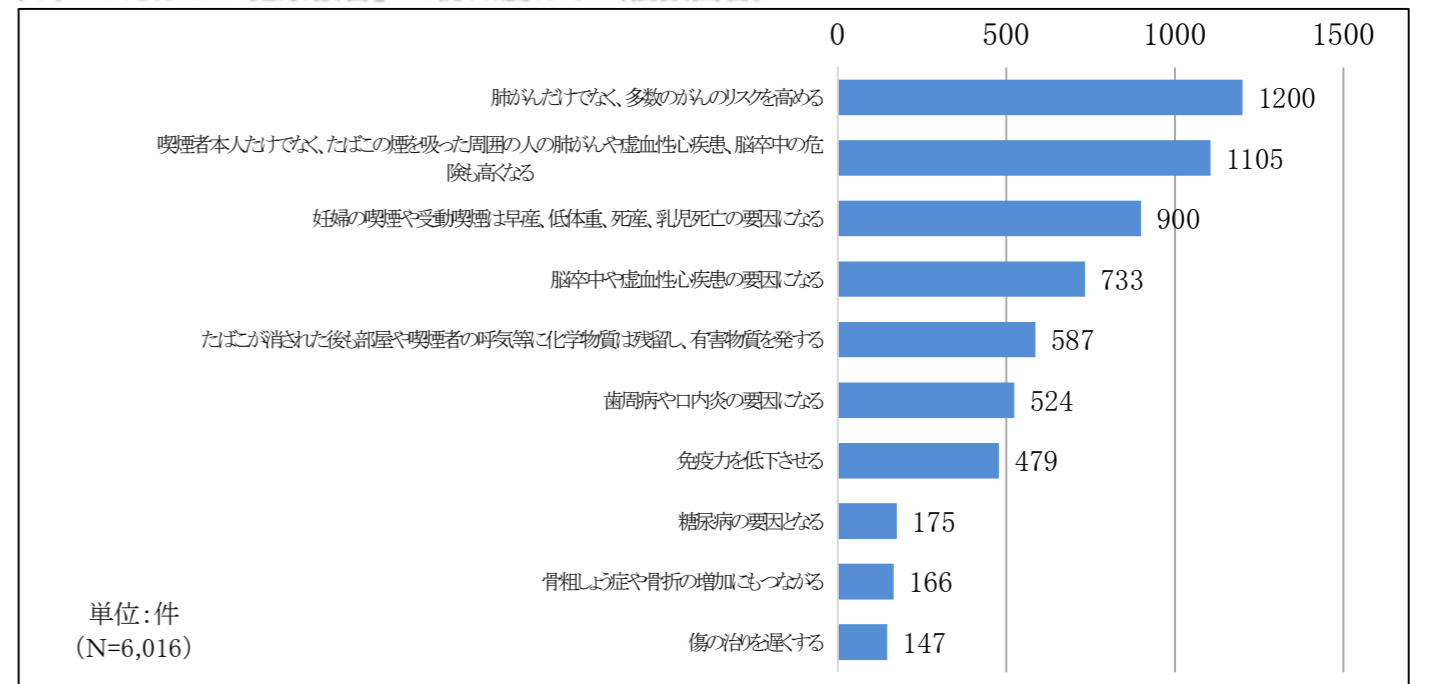
家庭内でのたばこを吸うことに関するルールをみると、「家の中で吸わない」が137件と最も高く、次いで「換気扇の下で吸う」が61件、「18歳以下の子どもや妊婦がいる前では吸わない」が37件と高くなっている。

(7) 過去1年の間で、喫煙者のマナーで気になる場面は？ (複数回答)



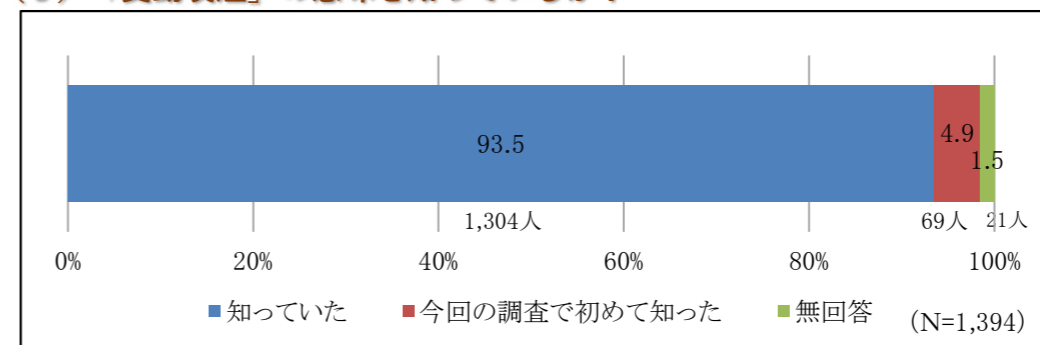
過去1年の間で喫煙者のマナーで気になる場面をみると、「喫煙後のたばこをポイ捨てしている」が616件と最も高く、次いで「歩きながらたばこを吸っている」が599件となっている。

(8) 「たばこの健康被害」の認知度は？ (複数回答)



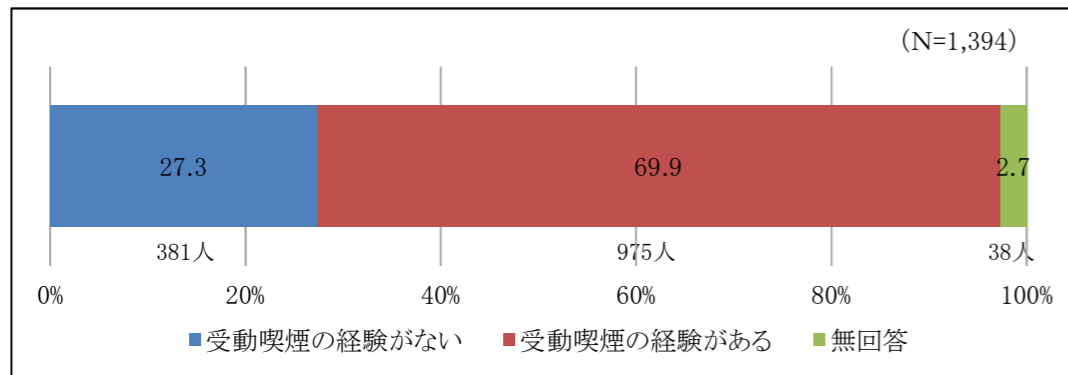
たばこの健康被害について、知っている項目をみると、「肺がんだけでなく、多数のがんのリスクを高める」が1,200件と最も多く、次いで「喫煙者本人だけでなく、たばこの煙を吸った周囲の人の肺がんや虚血性心疾患、脳卒中の危険」が1,105件と高くなっている。

(9) 「受動喫煙」の意味を知っているか？



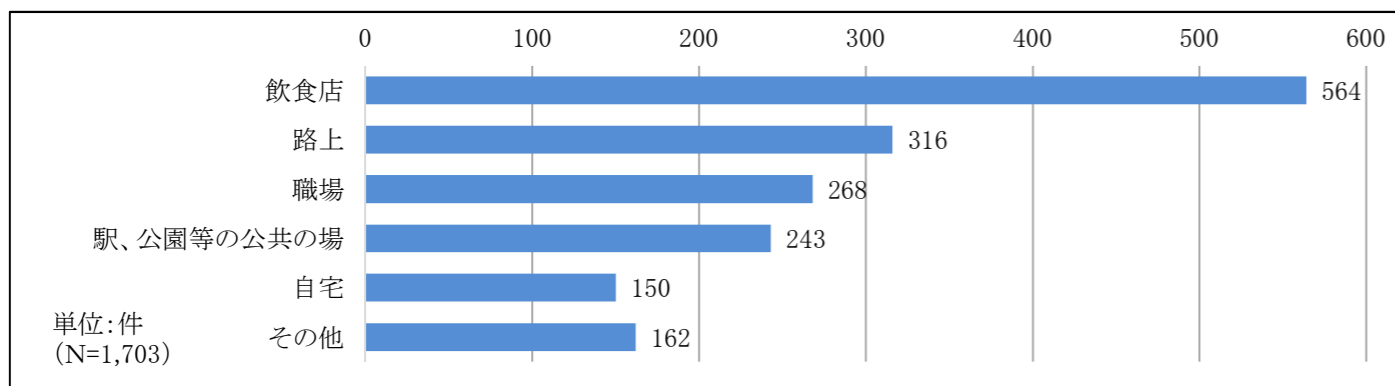
受動喫煙の意味を知っているかについてみると、意味を「知っていた」割合が、93.5%と高く、「受動喫煙」の認知度は高い状況である。

(10) 過去1年の間で、受動喫煙を受けた経験は？



過去1年の間で、受動喫煙を受けた経験をみると、「受動喫煙の経験がある」が69.9%と高くなっている。

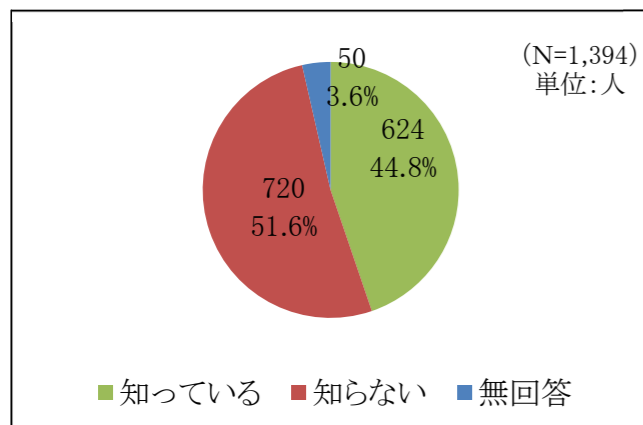
(11) 受動喫煙を経験した場所は？ (複数回答)



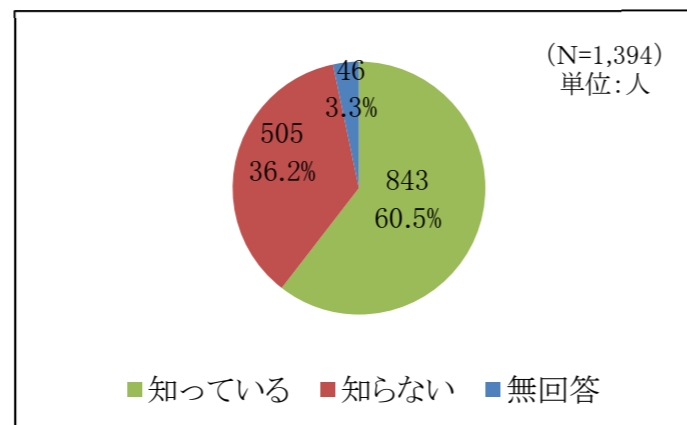
受動喫煙を経験した場所をみると、「飲食店」が、564件と最も多く、次いで、「路上」が、316件、「職場」が268件となっている。

(12) その他、受動喫煙について

ア 喫煙者の吐く息や髪・服等に付着したたばこの臭いでも、「受動喫煙」が起こることを知っているか？

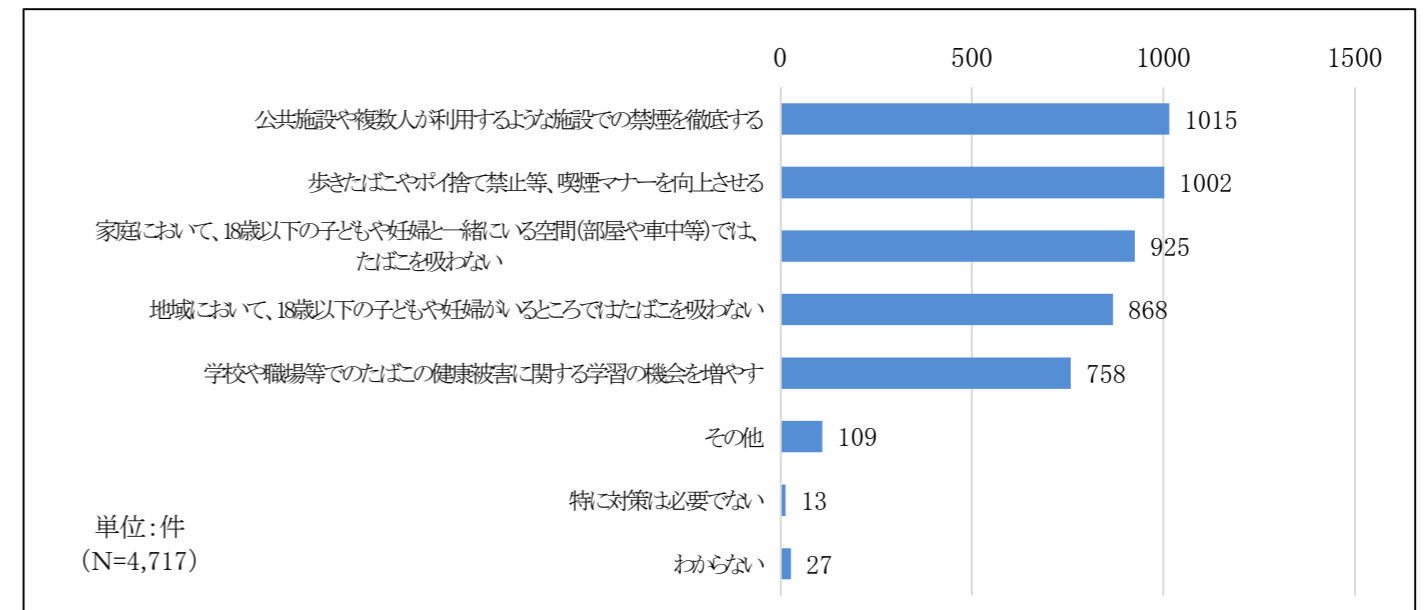


イ 「受動喫煙」が子どもの病気(ぜんそく等)や学習(知能低下等)への影響を与える可能性があることを知っているか？



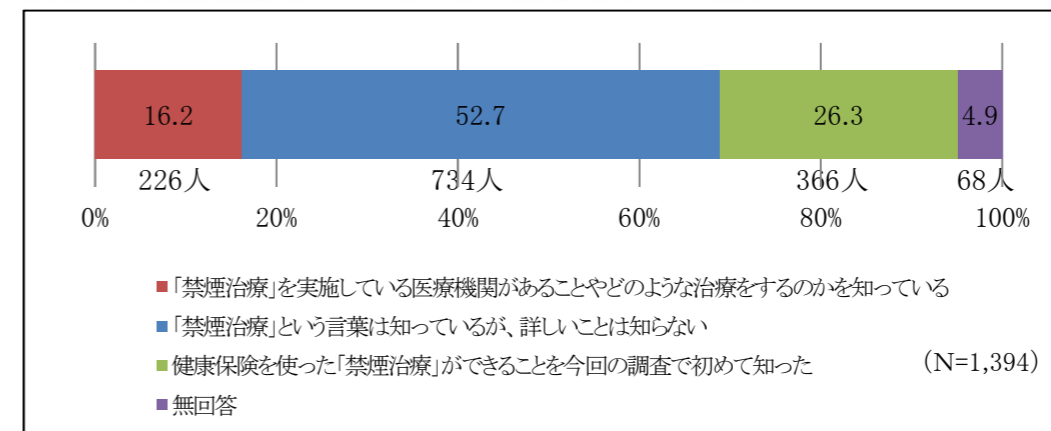
喫煙者の吐く息や髪・服等に付着したたばこの臭いでも「受動喫煙」が起こることを知っている人の割合をみると、「知らない」が51.6%と高くなっている。また、「「受動喫煙」が子どもの病気や学習への影響を与える可能性があることを知っている」人の割合をみると、「知っている」が60.5%となっている。

(13) 市民 (特に18歳以下の子どもや妊婦) をたばこの健康被害から守るための対策は？ (複数回答)



市民をたばこの健康被害から守るための対策をみると、「公共施設や複数人が利用するような施設での禁煙を徹底する」が1,015件と最も多く、次いで、「歩きタバコやポイ捨て禁止等、喫煙マナーを向上させる」が1,002件と多くなっている。

(14) 「禁煙治療」について、どの程度知っているか？



「禁煙治療」について、どの程度知っているかをみると、「言葉は知っているが、詳しいことは知らない」が52.7%と最も高く、次いで、「健康保険を使った禁煙治療ができることを今回の調査で初めて知った」が26.3%と高くなっている。

(15) その他、たばこ対策や受動喫煙防止等についての意見

- ・ある程度マナーを守っていれば完全禁止でなくても良いと思う。長く吸っていた人にはストレスだろうし、それで不安定になる人もいます。
- ・たばこを吸う人の意識の向上と、しっかり分煙できればと思います。
- ・健康被害では吸う人より周りの人にも害があることの方を強く知ってもらった方がいいのでは？
- ・店の入口のすぐ横とか駅トイレの目の前にある灰皿は無意味、残念、分煙になっていないと思います。
- ・禁煙を勧めるよりも、まだ吸っていない子供たちに吸い始めない教育を徹底していく方が有効だと思います。
- ・加熱式タバコにも害がある事を詳しく広める事も必要だと思います。
- ・親の病気を期に家族のことを考えて「禁煙治療」でやめることができました。特に、若い人たちには「禁煙」を勧めたいです。
- ・たばこは害があるとは思いますが、気分転換など喫煙マナーを守れば良いかなと思います。